

## 第6回厚生常任委員会会議録

- 1 開会日時 平成25年7月22日（月）午後1時0分
- 2 閉会日時 平成25年7月22日（月）午後3時5分
- 3 会議場所 議会委員会室
- 4 出席委員  
5番 丸山 明君                      7番 原田 素代君                      9番 行本 恭庸君  
13番 福木 京子君                  14番 佐藤 武文君                  17番 実盛 祥五君  
18番 小田百合子君
- 5 欠席委員  
な し
- 6 説明のために出席した者  
市 長 友實 武則君                      副 市 長 安井 栄一君  
総 務 部 長 池本 耕治君                      市民生活部長 小坂 孝男君  
市民生活部参与 藤井 清人君                      保健福祉部長 奥本 伸一君  
保健福祉部参与兼 岩藤 正人君                      赤坂支所長 森 章君  
社会福祉課長兼 山田 長俊君                      吉井支所長 檜原 哲哉君  
子育て支援課長 赤磐市民病院事務長  
熊山支所長兼  
赤磐市民病院事務長  
市 民 課 長 鶴海 恵子君                      環 境 課 長 黒田 靖之君  
健康増進課長 岩本 武明君                      介護保険課長 藤原 康子君
- 7 事務局職員出席者  
議会事務局長 富山 義昭君                      主 幹 原田 幸子君
- 8 協議事項 1) 平成25年度事業の進捗状況について  
2) その他
- 9 議事内容 別紙のとおり

午後1時0分 開会

○委員長（福木京子君） それでは、皆さん御苦労さまです。

参議院選挙も終わりました、ちょっと落ちついたんじゃないかと思いますが、これから第6回厚生常任委員会を始めていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、始まる前に、まず市長のほうから御挨拶を。

はい、市長。

○市長（友實武則君） 本日はお暑い中、またお忙しい中、第6回厚生常任委員会をお開きいただきましてありがとうございます。

本日は協議事項といたしましては、平成25年度事業の進捗状況について及びその他の案件となっております。御審議のほどよろしく願いいたします。

後ほど担当から詳しく御説明をさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

○委員長（福木京子君） それでは、早速、協議事項に入っていきたいと思っておりますが、よろしいですね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（福木京子君） まず第1、平成25年度事業の進捗状況について御説明願いたいと思っております。

○環境課長（黒田靖之君） 委員長。

○委員長（福木京子君） はい、黒田環境課長、はい。

○環境課長（黒田靖之君） お手元の配付の委員会資料、市民生活部の資料でございます。1ページのほうをお開きいただきたいと思っております。

環境課のほうからは小水力発電の共同実証実験ということで、現在の状況について御報告させていただきます。

まず、このたびの小水力発電の実証実験の目的につきましては、市が策定しておりますあかいわスマートコミュニティ・ビジョンに基づきまして太陽光発電やEVなどの再生可能なエネルギーの普及拡大を目指す中で、赤磐市とナカシマプロペラ、株式会社川本の3者によります官民が連携した事業といたしまして、山陽浄化センターの処理水を有効利用して小水力発電の調査、実証を行い、新たなビジネスモデルの推進とエネルギーの自給、活用の検討と市民への環境学習の推進を図ることを目的として実施するものでございます。資料にもございますが、この実験を通しましてそれぞれの役割分担におきまして、赤磐市では下水道施設の提供、それから企業におきましてはその施設を利用して実証実験を行っていただくということで、所期の効果といたしまして環境学習の推進と、それから下水処理水を利用した発電、蓄電のノウハウの取得を行うこと、これによりまして最終的な目標といたしまして採集可能なエネルギーによるまちづくりを目指しております、電気自動車の充電だったりとか、そういった電力供給のいろいろな部分に生かしていければと考えておるところでございます。

1 ページめくっていただきまして、その次に計画というところをごらんいただきたいと思  
います。

先ほど申し上げましたように、今回の実験につきましては赤磐市とナカシマ、それから川本  
の3者による共同実証実験ということでございまして、山陽浄化センターの下水処理水を利用  
すると。実験期間につきましては、本年度、25年度の3月、来年、26年3月までが実験を終え  
た報告書までの作成期間になります。実施内容といたしましては、処理水によります発電を行  
う、その発電によって得られたデータを今後の検討課題として利用するための報告書を作成  
し、市のほうへ提出いただくという形になつとります。

それから、必要経費等につきましては、赤磐市におきましてはPR看板であったり、それか  
ら報告書の作成費用等の必要最小限の費用負担にとどめております。それ以外の実証実験に係  
る費用等につきましては、全て企業側の負担で行っていただくことになっております。これに  
対する補助金でございますが、岡山県のスマートタウン構想パイロット地域推進事業補助金を  
活用いたしまして2分の1の補助、今、予算的には100万円を計上させていただいております  
が、2分の1の補助を受ける予定に考えております。

それから、事業そのものに進んでいく上で視察見学会等を予定しておりまして、市民の方、  
それから行政機関も含めての見学会の開催、それから小・中学校等を含めて生徒、それから児  
童等を対象とした学習会を開催しまして、身近な施設での小水力発電のPRを行っていただ  
くと考えております。

その下に実証実験のフローということで写真等、ちょっと白黒ではございますが、載せてお  
ります。

一番下の大きな写真の部分へ、現在ですけど、赤磐市下水処理水による小水力発電実験中と  
いうことで、こういった看板のほうを啓発用として掲げる予定でございます。夜間もあります  
ので、発電した電力を用いて照明を点灯させて光源にしたいと考えております。この部分は啓  
発用の看板を設置する場所でありまして、実際に発電機そのものをつけるのはその次のペー  
ジをお開きいただきたいと思ます。

左側の上に放流ピットというのがあります。先ほどの照明看板がありました少し手前ぐらい  
に、平らな部分になります。地下埋設型の部分にございまして、この今、放流ピット、マンホ  
ールがあいておるかと思ますけど、この中をのぞいていただきますと右の矢印、ピット内部  
ということで、ここから処理水が放流されます。このピット内部の部分を活用しまして、斜め  
下になりますが、発電装置取り付けイメージというものがあるかと思ますけど、ここにこの図  
のような形で発電機を取りつけまして、放流水の力を利用して発電するというので、下  
に長い筒が絵ではありますが、この中にプロペラが入っております。落差の力を利用してこの  
プロペラが回転し、発電をするという。発電構造としてはこういった形で、その右側に鏡野町  
大倉実験状況というちょっと少し大きな写真が載っているとありますが、ここで実証実験をした

経緯がございまして、このような形で上から水を取り入れて下に落差で落ちるということで発電を行うという構造のものをつけて実験をしようというものでございます。

それから、その下に工程表の案をつけさせていただいております。

現在ちょっと8月ですが、8月2日に3者によります協定調印式を行う予定に現在進めております。この今、予定とは若干ずれてはきますが、8月2日に実施すると。それを受けまして、8月中ぐらいに設置工事のほうを行いまして、9月から実証実験を開始するというところで、来年の2月まで実証実験を行いまして、残り一月程度を含めてその成果をまとめるということの今、スケジュールで組んでいっております。

小水力の関係につきましては、簡単ではございますが、以上の形で現在は進めております。

続きまして、よろしいでしょうか。

○委員長（福木京子君） どうでしょうか、続けてしてもろうたほうがええかなあ。一つ一つが。皆さんどんなでしょうか。一つ一つ……。

○委員（佐藤武文君） 行きゃあええ。

○委員長（福木京子君） いい。

○委員（実盛祥五君） 続けていってん。

○委員長（福木京子君） 続けていってよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（福木京子君） はい、お願いします。

○環境課長（黒田靖之君） それでは、1ページめくっていただいて、ここに新聞記事を載せております。7月19日付の朝刊にちょっと載っていた記事でございます。

オムロン山陽からの有機塩素化合物の状況ということで、赤磐市上仁保にありますオムロン山陽の自社敷地内の地下水からトリクロロエチレンが基準値を9倍超えるものが出たという記事のことございまして、この事案につきましては赤磐市は7月4日16時ごろになりますが、県のほうから市役所のほうにこういった事案があったということで報告を受けております。その翌日に市のほうが県のほうへ出向いていきましてその状況を聞き、その後、オムロンのほうからどういった状況であったかということを知っております。その聞いた内容ですが、オムロンの京都の四条工場で基準値を超える事案が発生したということから、全国の同様の仕様形態である系列会社へオムロンが指示をしまして、それぞれのところで検査するようにといいところでしたところ、今回の9倍を超える結果が出たということでございます。この結果を受けまして、翌5日の話ですね、市では上仁保、それから下仁保の区長宅にお邪魔上がりまして、現状の状況を説明をいたしております。それから、8日になりまして、地元の状況、井戸の関係もありますので、その辺の採水を行う調整を行いまして、11日、県において井戸水を15地点、それからため池が2カ所、それから河川水の1カ所、計18カ所の水質検査を実施しております。翌12日、検査結果が出ておりまして、いずれの地点でもトリクロロエチレンの部分は不検

出であったという報告が市にございまして、その結果を即日、上仁保、下仁保の区長に報告をしております。今回、18地点を検査しておりますけど、地域内には今回検査した以外の井戸も多数あるということから、地域において検査希望があるかどうかということも含めまして希望者には検査するという事をお伝えして、以後、連絡を受けるような形にとります。

なお、基本的には上水道が全ての地域に入っておりますので、飲用する場合は上水道を利用してくださいというようなこともあわせて注意喚起をしております。

この調査の結果、上仁保では1件、それから下仁保では2件、計3件の追加の検査依頼がございました。本日にになりますが、午後からその地点での採水を行う予定で行っております。

今後につきましては、事業者におきまして事業所内の詳細な土壌調査を実施して、なおかつ県においては土壌汚染対策法に準じた浄化対策を行っていただくということで、対策に必要な指導を行っていくというような報告を県のほうから受けております。

なお、今回の事案につきましては平成12年ですか、旧山陽町時代にも同様な事案があったということがございます。当時は基準値の1,000倍を超える値が出ていたというようなことでもございました。当時、浄化対策を講じまして基準に適合していたということから、平成20年に事案が収束しているということで、この案件については終わっているという状況になってございます。

オムロン山陽からの有機物の事案については、簡単でございますが、現在までのところの状況は以上でございます。

○委員長（福木京子君） 2件、市民生活部のほうから報告がありました。

それについて質問があれば。

○委員（原田素代君） はい。

○委員長（福木京子君） はい、原田委員。

○委員（原田素代君） スマートタウン構想のパイロット地域に指定されて以降ですね、その前に市としてはこのパイロット地域に手を挙げたときに2012年にスマートコミュニティ・ビジョンを策定して、翌2013年1月にパイロット地域に指定されるという経緯の中で、この小水力発電というのは前任の市長さんのほうから聞いていたことで、私はよくわからなかったんです、当時の市長が下水管の排水を利用した発電だという意味が。私は一般的には河川で、この辺でしたら田原井堰ですとか、赤磐市内でそういういわゆる一般的な河川を利用した小水力発電っていうイメージがあったので、今回これ説明を受けて、ああ、なるほど、こういうものをイメージしてるんだなあっていうのがわかったんですが、何か私たちが一般的に思う自然エネルギーを使った発電事業というのとちょっと違うなあっていうのをまず1つ感じたのは、いわゆる官民で一つの共同で実証実験をする、いわゆる実際これが水力発電として何ワットもの電力を発電して、それがこの地域の発電がちゃんと潤うようにするんだというものではないっていうのがまず1つあるものなんだというのはわかったんですけど、何でこのナカシマプロペラ

さんと川本さんとなったのかなってということがまず1つ、どういう経緯でこの民の事業者さんと連携を組むことになったのかってという経緯をまず知りたい。

それから、結局これはただ1年こっきりの実証実験の事業で1年たったら終わりのわけですけど、その辺のことについては今後は、せっかくパイロット地域に指定されてるわけですから考えてるのかどうかっていうのも聞きたいんですけど、例えばこれ何ワットぐらい、発電量が全然出てないんです、どこにも。この看板のLEDをつける程度の電力とも思えないんですけど、一応ここには何か防災上の電力の活用とか電気自動車の充電とか出てますけど、これは実際どのぐらいの発電量を見込んでるものなのかなっていうこと、これをやることで赤磐市が何のメリットがあるのかっていうのがよくわからないんですよ。いや、その辺ちょっと全体を通じて説明をお願いしたいと思うんですけど。

○環境課長（黒田靖之君） 委員長。

○委員長（福木京子君） はい、黒田環境課長。

○環境課長（黒田靖之君） まず、発電能力についてはこれから実証していくということで、まだはっきり当然わからないわけですけど、その資料の中にも何ページでしたか、放流ピットの中の写真の部分で、鏡野町で行われてる部分では大体1キロワットから3キロワット、多少幅がありますが、そのあたりのデータというふうにお聞きしております。

3者による共同、経緯といたしましうか、このパイロット事業なりコミュニティ・ビジョンに基づいて赤磐市が再生可能なエネルギーを求めていくという中で、先ほどの鏡野の部分で既に企業のほうが率先して実証をやっていた経緯がありました。おっしゃるように河川、それからそのほかやっぱりある程度電力が多く見込めるというのが一番理想的ではあるかと思うんですけど、企業側がまずやって確実に発電できるのはどこだろうかということで県内を探してみたら、この鏡野がたまたま偶然にあったという状況があって、これが使われてない養魚場の場所でありました。そこでじゃあ、水は豊富にあるというところで実証をやってみようということでやっておられたんですが、現実問題はなかなか山間部であるというところから、木がプロペラに挟まったり落ち葉が挟まったりということで、相当全面にスクリーンを何層何層というてやるんですけど、なかなかその管理がうまくいかなかったという状況もあったようです。そういった中で、河川の場合では本来確実に水が流れて大きな発電ができるというのが一番メリットとしては大きいわけですけど、まず実験段階でありますのでまだどなたも余りされてないということで、どのぐらいの能力でどのぐらいの水量だったらどれだけの発電能力があるかというのを確かめる上でそういった施設を選ばれたという経緯があって、実際に周りの環境から大変だというような状況もありました。そういったところで、この鏡野町、鏡野の実験が終わったということで、たまたま偶然、赤磐市でもそういったお話で考えておったというのがあるんで、じゃあそういった周りに、楽にという言い方もおかしいですけど、影響がないような形で発電能力が生かせるところということを考えてときに、下水処理場の水を垂れ流し

になつとるという部分で、あれを活用できればいいなというところから着目して、あそこが有効に使えるのではないかとということとそこに持ってきたという経緯がございます。

それから、もう一個は何だったかな。

○委員長（福木京子君） メリット。

○環境課長（黒田靖之君） あ、メリット。それから、実施後のメリットということではございますけど、今回の実験は限られた状況、条件の中で実証実験の機械を設置して行うということがございます。実施終了後、どこかに発電装置を設置してすぐに発電するというにはなかなかすぐにはなりませんけど、実効の、実際の実用の可能性を探るということ、それから共同実験を通して再生可能エネルギー事業に携わる事業者の一助を行うことでエネルギー事業者の育成と発展を推進するという目的もでございます。また、得られた結果をもとに学術研究会での発表を行うということで、全国に向けてエネルギー事業の市の取り組みを発信できると、アピールすることができるということを思っております。最終的な目標としては、検証をもとに例えば河川の洪水時の推移の監視用照明に使うとか、それから電気自動車の充電器の役割を果たすとか、そういった有効性を生かしていければ最終的にはいいのではないかとというふうに考えてるところです。

○委員（原田素代君） はい。

○委員長（福木京子君） はい、原田委員。

○委員（原田素代君） 何となくアウトラインが見えてきまして、要するに自然エネルギーを活用して赤磐市としてどんどん取り組もうというのとその前段階というか、民との共同研究に提供してあげますよということなんだなっていうのがわかったんですけど、さっき言った県のほうからのパイロット指定地域への補助金の2分の1の100万円っていうのは、これはこの小水力共同実証実験のためだけに充てる予定で100万円を補助をもらうつもりでいらっしゃるというふうに理解したらいいんですか。

○環境課長（黒田靖之君） 委員長。

○委員長（福木京子君） はい、黒田環境課長。

○環境課長（黒田靖之君） 100万円というのはちょっと事業規模でございます。ですから、100万円の予算に対して半分の50万円が、2分の1が……。

○委員（原田素代君） 2分の1が……。

○環境課長（黒田靖之君） そうです。

○委員（原田素代君） では、50万円……。

○環境課長（黒田靖之君） 100万円は予算です。半分の2分の1、50万円が補助金と。

○委員（原田素代君） このページのこの必要経費全部で50万円。

○環境課長（黒田靖之君） いや、全部はもうちょっと、企業側も当然ありますから、負担分が。

○委員（原田素代君） 赤磐市として……。

○環境課長（黒田靖之君） 赤磐市としての負担が……。

○委員（原田素代君） 事業規模が50万円。

○環境課長（黒田靖之君） そうです、約で。全体としては315万円でしたか、概算費用ですけど。

○委員（原田素代君） とりあえず、わかりました。

○委員長（福木京子君） よろしいですか。

○委員（原田素代君） はい。

○委員長（福木京子君） 他に、ほかの委員さんよろしいですか。

一応は説明はいただいて、ざっとした何かあれはわかりますけど、これはあれですか、具体的に場所を確認したり、経過の中で委員会としてはどう、見に行ったりいろいろと考えられますか。

はい、黒田課長。

○環境課長（黒田靖之君） はい、委員長。

○委員長（福木京子君） はい。

○環境課長（黒田靖之君） 今度の委員会で現場のほうを見ていただければと思っておりましたが、きょうはちょっと施設のほうの時間もとれてございませんので……。

○委員長（福木京子君） ああ、そうね。

○環境課長（黒田靖之君） はい。

○委員（原田素代君） あ、済いません。

○委員長（福木京子君） はい、原田委員。

○委員（原田素代君） 追加で聞きたいんですけど……。

○委員長（福木京子君） はい。

○委員（原田素代君） この川、鏡野のプラントは、このナカシマさんと川本さんがおやりになってるわけ。

○環境課長（黒田靖之君） 委員長。

○委員長（福木京子君） はい、黒田課長。

○環境課長（黒田靖之君） そうです。

○委員（原田素代君） 県内はここだけ。

○環境課長（黒田靖之君） ここだけです。

○委員（原田素代君） 業者さん。

○環境課長（黒田靖之君） はい。

○委員長（福木京子君） よろしいですか。

それで、あともう一つの関係はよろしいですか、トリクロロエチレンのあたりのほうはよろ



しいですか。

はい、原田委員。

○委員（原田素代君） もう既に、これが使用したのが1971年の創業から91年までということで、22年も前に停止していながらまた出たということで、この有機溶剤っていうのは一度汚染されるとずうっとしみ渡っていくっていうふうには聞いているわけですが、そのきっかけが京都工場のほうで出たからこっちも一応念のためしたらなったっていうことですが、近隣に出てこないから安全なのかどうかという不安は皆さんおありになるでしょうし、今この会社自身はまだ操業はしてらっしゃるんですよえ。

○環境課長（黒田靖之君） 委員長。

○委員長（福木京子君） はい、黒田課長。

○環境課長（黒田靖之君） 操業のほうはしております。最近のホームページをちょっと拝見したんですが、例えばこういった先につける、パソコンの裏につけるようなコネクターとか、そういったものを製造しておるようです。今回のトリクロロエチレンのほうは使用はしていないという……。

○委員（原田素代君） この91年の……。

○環境課長（黒田靖之君） そうですねえ。

○副委員長（丸山 明君） はい、ちょっといいですか。

○委員長（福木京子君） よろしいですか。

○委員（原田素代君） いいです。

○委員長（福木京子君） はい、丸山委員。

○副委員長（丸山 明君） これ多分、これ地下に過去、汚染でしみ込んだものっていうのは恐らく自然に消えることがないと思うんですよ。ここに同社は専門業者と協議し、対策をとるとしているというふうになってるんですけど、結構地下に多分13メートルもしみ込んでるものを有効に汚染をとめる方法があるのかどうなのか、ちょっと具体的な何か報告をやっぱり聞いたほうがいいと思うんです、求めたほうが。今後も多分あらぬところに、地下水からあのあたり周辺に汚染が広がる可能性もあるんじゃないかというには思うんですけど、そのあたりの後の報告等についてはどのようにされるのか、報告求めることについて。きちっと対策してたほうがいいと思うんですが。

○委員長（福木京子君） はい、黒田課長。

○環境課長（黒田靖之君） 委員長。当然に県の指導のもと、それぞれの事業者において対策を行っていくということではございます。以前の発生したときにも、オゾン処理か何かの方法でこの対策を講じていただくようにして、今回も恐らく、方法はちょっとまだわからないんですけど、ある程度それに沿ったような形での処理をしていくんじゃないかなということで、今回の発見というか検出された場所が、以前に採掘した場所についてはちょっと収束したという

ことで、井戸を閉鎖しとるらしいんです。指示を受けて、その近くに新たに井戸を掘られたと、観測用の。2カ所、井戸を掘られて、その一カ所から出たということなんで、ある程度そのあたりは会社のほうは把握しとられると思うんで、その辺の周辺を含めた、ちょっと井戸も含めた形での浄化対策としていくのではないかと考えておりますけど、いずれにしても経過を含めてまた今後は県のほうから情報を入れてくれるというふうには考えております。

○委員長（福木京子君） よろしいですか。

○副委員長（丸山 明君） はい。

○委員長（福木京子君） それで、報告は後してくださるということですね。

それで、地元とは公害防止協定か何かそんなん結んでおられますよね。

○市民生活部参与（藤井清人君） 委員長。

○委員長（福木京子君） はい、藤井参与。

○市民生活部参与（藤井清人君） 先ほど課長が説明しましたように、この平成12年に1,000倍を超えるトリクロロエチレンが地下水から検出されたということで、地元、上仁保、下仁保の区長さん、それからオムロン、そちらのほうで協定を結んで地下水の調査を続けてまいりました。それが平成20年で2カ年、水質基準をクリアしたということから水質検査のほうを終了しとります。今回、京都のほうで土壤汚染対策法で用地についての取引をするということで土壤の検査をした結果、地下水からそういったものが出たということで、全国のそのような工場に対してオムロン自身が検査を実施し、赤磐市の上仁保の工場のほうから出てきて、県のほうに土壤汚染対策法に基づく申請を現在しとるところです。今現在の地元との協定はございません。

○委員長（福木京子君） あ、ないんですか。

○市民生活部参与（藤井清人君） 以上です。

○委員長（福木京子君） ああ、もうほったらそれは生きてはないん。それは一応終わっとなですわね。

○市民生活部参与（藤井清人君） 終わってます。

○委員長（福木京子君） いや、そりゃあ、あ、いいですか。20年に一応、終了宣言したにもかかわらず、数年後にこういう状況があったということですから、そのあたりは数年に一回ぐらいな調査が要るんじゃないかと思うんです。これは県が指導されることでしょうし、そのあたりは慎重にやっぱ環境問題やっていただきたいなあと思いますんで。

あと、他の委員さんよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（福木京子君） ないようですので、こちらのほうはよろしいです。

○介護保険課長（藤原康子君） はい、委員長。

○委員長（福木京子君） はい、どうぞ、はい、藤原介護保険課長。

○介護保険課長（藤原康子君） 平成25年2月の厚生常任委員会以来、赤坂地域に計画いたしました小規模多機能型の居宅介護整備計画において報告してまいりました。そして、せんだって6月の委員会では国補助金から県補助金、介護基盤緊急整備等臨時特例事業費補助金の3,000万円の補助金に振りかえることについてお願いし、それを受け、せんだって株式会社アカイワベリーにその補助金の内示を出ささせていただきました。そのアカイワベリーからはかねてから古民家改修に対する耐震等を検討されていたと聞いておりましたが、先日、6月の報告よりも余りにも費用がかさむことが予想されることがわかり、また改修したといたしましても万が一の地震等の災害発生時を想定しますと、利用者の安全性を考慮して新築での整備計画に変更したいとの申し出とともに計画書が市のほうに提出されてまいりました。へえで、補助金が1,500万円から3,000万円になりましたが、建築物の構造体自身の補強以外にも整備途中にふぐあいが生じ、追加する改修のため費用がかさみ、今後の事業運営への影響も考え、また宿泊定員が5名としとりましたけれども、7名に増員され、地域住民にとってはとっさのときの支援に有効であり、また建築物につきましても安全性と耐久性が確保され则认为ます。市のほうにつきましても、書類の提出を受け検討し、その変更について承諾していくことにいたしました。

つきましては、事業費についてなんですが、きょうおつけいたしました資料の1ページをごらんください。

この整備予定施設といたしまして、小規模多機能型居宅介護の登録定員の25名、通所利用定員の15名は変更ございませんが、宿泊定員につきましては前回5名でありましたものを7名とし、2名の増員となりました。建築物構造面積なんですけれども、せんだっては木造2階建て、162.09平方メートルで民家1階部分の改修予定でしたが、このたびは木造平家建て、240.92平方メートルの新築、一部倉庫は事務所として改修される予定です。事業費といたしましては、総額が5,610万円から364万5,000円減額されまして5,245万5,000円となりました。その財源の内訳といたしましては、補助金3,000万円と借入金845万5,000円、自己資金額1,400万円とで運用していく計画となりました。

図面につきましては、きょうの資料の2ページ目をごらんください。

既に建築物であります倉庫につきましては、ちょっと線が入っておりますが、連なっている一つの部屋といたしまして事務所に改修され、母屋を取り壊し、新築されるということです。

平成25年度小規模多機能型居宅介護整備につきまして以上のように報告させていただきます。

以上です。

○委員長（福木京子君） あと、引き続いてこの保健福祉は、説明は。

○健康増進課長（岩本武明君） 委員長、はい。

○委員長（福木京子君） はい、どうぞ、はい、岩本課長。

○健康増進課長（岩本武明君） 健康増進課、岩本です。

○委員長（福木京子君） はい。

○健康増進課長（岩本武明君） それでは、本日の資料の3ページのほうをごらんいただきたいと思います。

赤磐市での風疹についての資料でございます。

風疹というものは、予防接種法第5条に規定されている接種で行っています。

風疹の発生状況でございますけども、2008年から2013年6月30日までの岡山県内と東備保健所管内での発生状況をここに載せております。2012年は6人が2013年6月30日までに岡山県内では62人という形になっております。また、東備保健所管内では、2012年がゼロだったのが2013年には3という形になっております。

それから、東備地域管内におけます予防接種費の助成の状況でございます。和気町におきましては全額助成いたしております。備前市は一部助成、瀬戸内市は助成の予定はございません。赤磐市としては、他市の状況を見ながら対応してまいりたいと考えておるところでございます。

4番目といたしまして、予防接種回数、ワクチンの供給の予測でございます。

1番目といたしまして、本年4月から6月の推計の接種回数、MRワクチン、それから風疹の単独ワクチンの合計でございます。このMRワクチンというのは風疹と麻疹の混合のワクチン、2種類のワクチンのことでございます。4月の定期接種が45万回、5月の定期接種は17万回、6月の定期接種が約20万回ということでございます。任意接種につきましては、4月が約9万回、5月が約32万回、6月が約35万回となっております。

それから2番目といたしまして、本年7月以降の製造販売業者等による任意接種者数別の風疹ワクチン、これは風疹の単独とMRの両方でございますけども、在庫のシミュレーションがございまして。任意接種で月に20万回接種した場合、それから25万回接種した場合、30万回接種した場合、35万回接種した場合にそれぞれ7月末と8月末、9月末の在庫のシミュレーションとなっております。これを見ますと、前倒し出荷、増産等の対応をすることということで、9月末におきましても月35万回の接種を行った場合でも在庫のほうは確保されるということになっております。また、厚生労働省では、製造販売会社に安定供給のための枠の前倒しの出荷、増産を要請してるところでございます。

風疹の状況につきましては以上でございます。

○委員長（福木京子君） 説明が終わりました。

これに対して何かありましたら質問ください。

○委員（原田素代君） はい。

○委員長（福木京子君） はい、原田委員。

○委員（原田素代君） 小規模多機能のことなんですが、4ページ、今日配ったのは1ページ

です。前回、5月29日付で出てきた資料と比較してみますと、真ん中辺に開設後5年間の収支計画の平成26年から平成30年の計画プランが出てるんですが、これはどういう意味なのかちょっと説明をお願いしたい。

借入金の返済と差し引き残額にアンダーラインがある、何か意味があるんです。それで、借入金返済は5月29日に出された金額より低いです、かなり。これはどういう変更があったのかちょっと説明をお願いできますか。

○委員長（福木京子君） はい、藤原課長。

○介護保険課長（藤原康子君） 5月29日の資料につきましては、補助金につきましては1,500万円だったと思います。

○委員（原田素代君） そうなってます。

○介護保険課長（藤原康子君） そこにありまして、建設費につきましてはちょっとスプリンクラーだとかいろんな設備等々の兼ね合いで、6月20日に3,000万円で補助金を組み入れたもので御報告をさせていただいておりますのと、このたびにつきましても建設費についてもスプリンクラーを入れさせていただいたとる兼ね合いがございます。

きょうの資料につきましては借入金等にアンダーラインを入れさせていただいてる理由は、せんだって御報告したところと数値が違うところがわかりやすいようにと思ひまして、そちらの収支決算以外にもアンダーライン入れさせていただいておりますのが、せんだっての報告と違つてるところを入れさせていただいてる次第です。せんだってとしましては、借入金のほうが幾分か建設費用等が安くなりましたものですから借入金が845万5,000円となりましたので、それに兼ね合いで借入金の返済が177万8,000円となりまして、収支との兼ね合いで差し引き残額につきましてもせんだっての御報告よりも収支のほうが高くなっているかと思うんですが、26年は初年度ですのでマイナスが出ますけれども、27年度以降は392万9,000円の利益が出るということで見てくださいましたらと思うんですが、よろしく願いいたします。

○委員（原田素代君） わかりました。

○委員長（福木京子君） 他にありませんか。

○委員（原田素代君） いいですか。

○委員長（福木京子君） はい、原田委員。

○委員（原田素代君） ちょっと気になつてるのは、今回スタッフの手配ができたということが一つの立ち上げの看護師やケアマネの事業協力者が出てきて、これは今現在、7月現在、大体看護師やケアマネそれぞれ何人ぐらいのスタッフが予定されていると聞いてらっしゃいますか。

○保健福祉部参与兼社会福祉課長兼子育て支援課長（岩藤正人君） 委員長。

○委員長（福木京子君） はい。

○保健福祉部参与兼社会福祉課長兼子育て支援課長（岩藤正人君） 保健福祉部参与、岩藤。

- 委員長（福木京子君） はい、岩藤参与。
- 保健福祉部参与兼社会福祉課長兼子育て支援課長（岩藤正人君） 看護師、ケアマネは最低1人必要な職種になりますので、とりあえず1人ずつは確保ができてるんだらうと思います。
- 委員（原田素代君） スタッフは。その他のスタッフ。
- 保健福祉部参与兼社会福祉課長兼子育て支援課長（岩藤正人君） スタッフ。委員長。
- 委員長（福木京子君） はい。
- 保健福祉部参与兼社会福祉課長兼子育て支援課長（岩藤正人君） スタッフにつきましては、今から雇用契約をするわけにはまいりませんので、これから事業が採択されて、へえから工事ができる段階で募集をかけていくということで、通常1カ月、2カ月前にある程度、雇用確保という形にならざるを得ないような状況だと思います。
- 委員（原田素代君） この規模だと何人ぐらい要るんでしょう。
- 委員長（福木京子君） はい、原田委員。
- 委員（原田素代君） ごめんなさい、委員長。
- 委員長（福木京子君） はい、原田委員。
- 保健福祉部参与兼社会福祉課長兼子育て支援課長（岩藤正人君） 委員長。
- 委員長（福木京子君） はい、岩藤参与。
- 保健福祉部参与兼社会福祉課長兼子育て支援課長（岩藤正人君） 常勤で換算すれば10人か11人ぐらいのスタッフ……。
- 委員（原田素代君） 看護師とケアマネ……。
- 保健福祉部参与兼社会福祉課長兼子育て支援課長（岩藤正人君） を含めて……。
- 委員（原田素代君） あ、含めて……。
- 保健福祉部参与兼社会福祉課長兼子育て支援課長（岩藤正人君） 含めて11、10人ぐらいだと。多くても12人ぐらい。
- 委員（原田素代君） 12人。
- 保健福祉部参与兼社会福祉課長兼子育て支援課長（岩藤正人君） はい。
- 委員（原田素代君） ありがとうございます。
- 委員長（福木京子君） 他にありませんか、この小規模多機能型については。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

- 委員長（福木京子君） 次に、これは予防接種の関係で、よろしいですか、説明で。今までの説明でよろしいでしょうか。
- 委員（原田素代君） いや、だから赤磐市は……。
- 委員長（福木京子君） はい、原田委員、原田委員。
- 委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（福木京子君） はい。

○委員（原田素代君） 赤磐市は助成はどうされるかはいつ決められるんですか。

○健康増進課長（岩本武明君） はい。

○委員長（福木京子君） はい、岩本課長。

○健康増進課長（岩本武明君） 赤磐市も他市の状況を見ながら検討していくということでございます。いつからというのはちょっとまたこれから検討していきたいと思っております。

○委員（原田素代君） 年度内じゃないんですか。

○健康増進課長（岩本武明君） はい、委員長。

○委員長（福木京子君） はい、岩本課長。

○健康増進課長（岩本武明君） それも他市の、よその状況を見ながら同じようにやっていきたいと思っております。

○委員（原田素代君） わかりました。

○委員長（福木京子君） よろしいですか。

風疹の関係で岡山県内、東備保健所の人数も出て、2013年がこういう状況ですので、やっば早い予防というのが非常に大切なので、その辺は慎重に他市の状況も大いに検討して、できれば前向きによろしくお願ひしたいと思ひます。

他にございせんか。

はい、行本委員。

○委員（行本恭庸君） これ3番に全額助成が和気町、へえから一部助成が備前市等々書いてあるわけですが、これ助成がなかった場合、何ぼかかるんか、そういう金額的なもんも書いてくれにゃあわからんわ。もう少し資料を出すんなら丁寧な資料出せえ。こんなもんで検討して、はい、よろしいですよというわけにいくまあ。おまえ、反対の立場になって物事考え。

○委員長（福木京子君） どなたが答えられますか。

○健康増進課長（岩本武明君） はい、お願ひします。

○委員長（福木京子君） はい、岩本課長。

○健康増進課長（岩本武明君） 失礼いたしました。ちょっと資料のほうの作成の中で、もっと詳しくすればよかった点があったかと思ひます。

ちなみに、全額助成いたしますと、MRで約1万円かかります。これは和気町の場合ですけど、MRワクチンで1万円ということをお聞ひしております。それから、風疹の単独では6,000円ということをお聞ひしております。

以上です。

○委員長（福木京子君） よろしいですか、資料としては。

○委員（行本恭庸君） はい、はい。

○委員長（福木京子君） ほかにないですか。

この数字というのが定期接種、任意接種の全国の数字を並べておるんですが、やはり赤磐市が定期接種は何人とかそういう身近な数を出していただかないと、ちょっと判断材料が出ないです。もしこれを全額助成とか一部助成したらどのくらいかかるとか、そのぐらいな資料なんかも出していただければ。どんなでしょうか。どなたが答えられますか。

○健康増進課長（岩本武明君） はい、委員長。

○委員長（福木京子君） はい、岩本課長。

○健康増進課長（岩本武明君） 資料の点につきましては大変申しわけございませんでした。今後、検討するに当たりましてはどういったような金額等、それから対象者がどうなるかということも踏まえまして検討してまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長（福木京子君） よろしいですか。

そうしたら、執行部のほうの報告は……。

○委員（行本恭庸君） 委員長。

○委員長（福木京子君） はい、行本、はい。

○委員（行本恭庸君） これで委員会開くのには委員長、副委員長が出て話し合いしとんどしょ、これ、打ち合わせで。

○委員長（福木京子君） はい、はい。

○委員（行本恭庸君） 打ち合わせのときに資料出されとんなら、そういう話はできんの。何のためにきょう委員会開いとん。こんなもん見たって何にもなりやへん。

○委員長（福木京子君） もっと詳しい資料を出すように今後……。

○委員（行本恭庸君） もっと考えてせにやあいけんで。

○委員長（福木京子君） 執行部のほうに要請していきたいと思います。

○委員（行本恭庸君） 執行部だけじゃねえわ。委員長の態度ももう少し考えて内容を見て、へえなのにかきょう何のために集まったかわかりやへんわ。

○委員長（福木京子君） 進捗状況ですから、資料はしっかり出ささせていただくようにいたします。

それでは、2番目のその他のほうに移りたいと思いますが。

○保健福祉部長（奥本伸一君） はい、委員長。

○委員長（福木京子君） はい、どうぞ、奥本部長。

○保健福祉部長（奥本伸一君） 保健福祉部長、奥本。

○委員長（福木京子君） はい。

○保健福祉部長（奥本伸一君） それでは1件、御報告をさせていただきます。

7月25日の木曜日午後7時から赤磐市民病院に関する市民説明会を開催させていただきます。内容につきましては、前回、診療所化を進めるということで御報告させていただいておりますので、地域の方が安心して暮らせるよう、よりよい診療所になるよう皆様の御意見をいただ



きたいと考えとりますのでお知らせいたします。場所を言いませんでした。

○委員長（福木京子君） はい。

○保健福祉部長（奥本伸一君） 熊山のふれあいセンターのホールで午後7時からでございます。

○委員長（福木京子君） 7時からですね。

○保健福祉部長（奥本伸一君） 失礼いたしました。

○副委員長（丸山 明君） 7時。

○委員長（福木京子君） 7時、7月25日ですね。

○保健福祉部長（奥本伸一君） はい。

○委員長（福木京子君） これ説明会ですが、診療所化の、ちょっと前回も説明会されて、近いですね。内容的には。

○保健福祉部長（奥本伸一君） 先ほど申し上げましたように、よりよい診療所を目指して皆様の御意見をいただきたいと考えとりますので、よろしく願いいたします。

○委員長（福木京子君） そうですか。主催は市のほうがあれですね、案内するということですね。

○委員（佐藤武文君） 委員長、よろしい。

○委員長（福木京子君） はい、佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 私はその結果、診療所化に向けての説明会ということについては異議はないんですけど、そのことについて委員会で説明なかったんです。いつそういうような形になったんですか。

○委員長（福木京子君） 説明……。

○委員（佐藤武文君） 私はそういうことは一切聞いておりませんが、いつ診療所化に向けてのそういうふうな推進をするという形になったんですか。我々には一切報告ないでしょう。

○委員長（福木京子君） ないです。

○委員（佐藤武文君） いつなったんですか。そんなばかなことはないでしょう。はっきりしてください。

○委員（原田素代君） それに関連して……。

○委員長（福木京子君） はい、原田委員、はい。

○委員（原田素代君） 今、奥本部長がびっくりするような発言したんだけど、前回、診療所化を進めるというふうにお話しされたと言ったけど、診療所化を進めるという答弁は友實市長おっしゃってないですよ、一度も。住民に説明をして専門家の話を聞いて医師会には迷惑をかけない、この3つしかしゃべってないですよ。診療所を進めるなんて一言も言ってないですよ。奥本さん、どうして前回そういうふうになったんでしょう、それあわせて聞きたい。初めて聞きました、診療所化を進めるという言葉。私は待ってましたけど、いつまでも延ばせない

でしょって。だけど、なぜ今回そういうふうに、前回言ったっていうけど、前回言ってない。それもあわせて聞きたいです。

○委員長（福木京子君） よろしいですか、今、佐藤委員と原田委員の質問がありまして、前回からの経過があると思うんですけど、その説明をまずしていただかないと。

○委員（佐藤武文君） 委員長このこと聞いとった……。

○委員長（福木京子君） 聞いてません。初めて言われました。その他ですから、初めて言われました。

○委員（原田素代君） 25日の説明会を今でしょう。

○委員長（福木京子君） だから、びっくりしましたけど。

○委員（原田素代君） 何で担当委員会にこの説明がないのか、総務委員会で初めて聞いたって聞きました。

○委員長（福木京子君） 総務委員会。

○委員（原田素代君） そうです。総務委員会で聞いたって聞きました。何でうちの委員会に、委員会が先だからいいけど……。

○委員長（福木京子君） ちょっと待って、総務……。

○委員（原田素代君） でも、それは最低ここに言うべきでしょ、担当委員会のほうへ。

○委員長（福木京子君） ちょっと原田委員、ごめんなさい、総務委員会に聞いたとはどういうことです。私は知りませんよ、それ。

○委員（原田素代君） いや、だから私はそういうふうに総務の方から聞きました、25日にあるそうなど。何で担当委員会にそれが先に来ないのって思った。

○委員長（福木京子君） それも含めてどういうことですか、筋道立てて説明願いたいと思います。

○保健福祉部長（奥本伸一君） はい。

○委員長（福木京子君） はい。

○保健福祉部長（奥本伸一君） 25日の説明会につきましては……。

○委員長（福木京子君） はい、奥本部長。

○保健福祉部長（奥本伸一君） 本日、委員の皆様にお知らせさせていただき予定でございました。

○委員長（福木京子君） お知らせですね。

○委員（行本恭庸君） 放送しとろう。

○委員（実盛祥五君） 放送しとった。

○保健福祉部長（奥本伸一君） 放送につきましては、7月17日に熊山、赤坂、18日に吉井をさせていただきます。

○委員長（福木京子君） ああ、17日と18日。放送してる。

- 委員（原田素代君） それがおかしい。
- 委員（行本恭庸君） おかしいことはねえ。
- 委員（原田素代君） 何で、担当委員会に何にも説明されてないんですよ。
- 委員長（福木京子君） ちょっちょっと待ってください、ちょっと待ってくださいよ。ちょっともう一回確認。
- 17日に熊山と……。
- 保健福祉部長（奥本伸一君） 赤坂。
- 委員長（福木京子君） 赤坂へ放送しとんですか。
- 保健福祉部長（奥本伸一君） はい。
- 委員長（福木京子君） 18日が吉井ですか。山陽はしてないん。
- 保健福祉部長（奥本伸一君） 山陽は、はい、委員長。
- 委員長（福木京子君） はい、奥本部長。
- 保健福祉部長（奥本伸一君） 山陽は、ちょっと防災無線が使えないんで放送はいたしておりません。
- 委員長（福木京子君） それで、原田委員も佐藤委員も言われましたけど、前回の発言されたことと今、診療所化を目指してというふうに変更してきております。その辺が抜けとるわけですよ。
- 委員（原田素代君） ちょっと委員長、済いません。
- 委員長（福木京子君） だから、その辺の。
- じゃあ……。
- 委員（原田素代君） 私、聞いたのきのうですよ。
- 委員長（福木京子君） はい、原田委員。
- 委員（原田素代君） 赤坂の放送。毎日してるんですか、それ以降。
- だから、今、18っていうのは全然記憶ないんですけど……。
- 委員長（福木京子君） 正確に言うてください。
- はい。
- 委員（原田素代君） しばらくやるんですか。
- 保健福祉部長（奥本伸一君） はい。
- 委員長（福木京子君） ちょっと待って。
- はい、奥本部長、はい。
- 保健福祉部長（奥本伸一君） 防災無線につきましては、前回同様、各地区3カ所、山陽を除いて行う予定といたしとります。ですから、赤坂につきましては17日、21日、24日の3回を予定させていただきとります。
- 委員（原田素代君） わかりました。

○委員長（福木京子君） その放送のことはいいんですけど、どなたが答えられますか。お知らせだけで済むことではないぞということですよ。

○委員（実盛祥五君） ちょっと委員長。

○委員長（福木京子君） はい、実盛委員。

○委員（実盛祥五君） ほんなら、山陽はどうして知らずんですか。

○保健福祉部長（奥本伸一君） はい。

○委員長（福木京子君） はい、奥本部長。

○保健福祉部長（奥本伸一君） 通知につきましては、各区長、町内会長には文書をもって、皆さんそろっておいでくださいという文書は流させていただきますとります。

○委員（実盛祥五君） だから、徹底すまあが。するんか。

○委員長（福木京子君） 徹底してない。区長、町内会長の個人には出されとんですね。  
奥本部長。

○保健福祉部長（奥本伸一君） 郵送にてお願いをさせていただきますとります。

○委員長（福木京子君） 郵送。

○委員（行本恭庸君） いつに郵送か。

○保健福祉部長（奥本伸一君） 17日でございます。

○委員長（福木京子君） 7月17。

これその後の変更というんですか……。

○委員（佐藤武文君） いや、委員会ではその権限じゃなくて、委員会としてのプライドもあるよ。そんなばかなことがどけえあるんでえ。こねえな委員会軽視のやり方はないよ。

むちゃじゃが、やりようること。

○委員長（福木京子君） その他で報告なかった、初めて奥本部長からお知らせということですから。

○委員（佐藤武文君） こんなやり方がどけえあるんでえ、委員会。僕らあは初めて聞いたがな。きょう初めて聞いたよ。

○委員長（福木京子君） だから、初めてです。

○副委員長（丸山 明君） そうです、こちらも初めてです。

○委員長（福木京子君） 委員長も初めてです。

○委員（佐藤武文君） こんなことがどけえあるんでえ。

○委員長（福木京子君） だから、委員会に対して執行部が対応が……。

○委員（佐藤武文君） 説明責任果たされとらんが。

○委員長（福木京子君） うん、ひど過ぎるから、ちょっと説明責任してください。説明をしてください、その後の経過を。

○委員（行本恭庸君） それを冒頭で言うたらんからこういうことになるんじゃ。

- 委員（原田素代君） これだって同じ。総務委員会から話が行くのはおかしいが。
- 委員長（福木京子君） その総務委員会からのそれも初めてですから、きょう。それはおかしいですよ。その一連の動きをきちっと理解できる……。
- 委員（佐藤武文君） こんなやり方がどこへあるんでえ。むちゃじゃが、やり方が。議会軽視も甚だしいよ。冗談じゃねえよ、これ。議会要らんが、これ。委員会も要らんが。こんなばかなやり方がどけえあるんで、こりゃあ。冗談じゃねえわや。何ぼにも納得できん、私は。
- 委員長（福木京子君） それでも、報告はもう既にされとるんですから、それは無視ですね。
- 委員（佐藤武文君） いや、こんなやり方がどけえあるんで、無視して。
- 委員（原田素代君） だから、聞いてください。
- 委員長（福木京子君） これについての説明をお願いいたします。きょうは22日です。
- 委員（佐藤武文君） むちゃくちゃじゃあ。
- 市長（友實武則君） 委員長。
- 委員長（福木京子君） はい、市長。
- 市長（友實武則君） まず、この説明会のお知らせがこの当厚生常任委員会の皆様におくれましたこと、心よりおわびを申し上げます。申しわけございません。
- そして、この診療所の事業の推進につきましては、前回の説明会で白紙撤回ができないということをはっきり申し上げまして、この診療所の事業を推進するということを説明会の中で申し上げさせていただいております。今回は、その説明会の際に御理解をいただけなかった方々が多くおられましたので、今回、7月25日に再び説明会を開催する運びとなりました。この説明の内容につきましては、前回、6月30日に説明させていただいた内容を踏襲したものになるかと思えます。
- 以上でございます。どうも申しわけございませんでした。
- 委員（佐藤武文君） 委員長、よろしい。
- 委員長（福木京子君） はい、佐藤委員。
- 委員（佐藤武文君） いや、当委員会では、あれは何でしたか、要綱でしたか、あれの扱いについてそこまで踏み込んで私は委員会で審査すべきじゃないということで、同僚委員がいろいろ質問されたことを私は委員会の中でもそういうことについて言及することじゃないということをお願いしたと思うんですよ。そして、地元へ行く前に委員会を開催して調整をされた結論を持って地元へ説明に行かれたと思うんです。その後のことについて委員会に報告する説明責任があったんじゃないんですか。私はその説明会にも出ておりませんし、そのことについての内容については一切把握してないんです。きょう唐突にそういうふうなことを言われて、25日に診療所化に向けての説明会をするんだ、それはそれで私はいいいんですけど、そのことについては反対はいたしませんけど、そこまで委員会に対してすべき行為があったんじゃない

んですか。それを申しわけございません、済いませんでしたの一言だけで済まされるんですか、そういうのは。議会軽視も甚だしいやり方をやられてから、それだけで済むんですか。市長が断りしたらせえでいいんですか。委員会として済ませてよろしいんですか、そういうこと。そんなばかなことはないでしょう。

○委員長（福木京子君） ちょっと確認したいんですが、前回、6月30日に時間切れですよ、みんなからいろんな意見が出されて、一応また持ち帰りますということで終わってると思うんですよ。だから、今、市長が説明されたのは、前回、6月30日の説明会の内容を踏襲したものになると今言われましたね。だから、同じ説明を再度、まだ納得をされてない方がいるから、それを踏襲してもう一回説明会をするということですね、7月25日は。そういうことですね。

はい、市長。

○市長（友實武則君） 内容につきましては、ほぼ同じ内容の説明になろうかと思えます。

以上です。

○委員（佐藤武文君） 委員長は……。

○委員長（福木京子君） ちょっと待って。

○委員（佐藤武文君） 行っとなったが。どこでそねえな会議があるというの聞いたん。わしらはそんなこと一切知りゃあへんよ。

○委員長（福木京子君） え、委員会であつたでしょ。

○委員（原田素代君） ない。

○委員（佐藤武文君） 話はなかったよ。

○委員（原田素代君） 議会運営委員会で日程調整のときに私のほうから……。

○委員長（福木京子君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 市長に6月30日にあるそうと耳に入れましたが、それは事実ですかと確認しました。なぜ言ってくれないんですかと言いました。そしたら、それは業務上の問題だからといって、要するに言うべきでないという認識だった、市長は。

○委員（佐藤武文君） いやいや、いやいや、行かれた委員がおられる、行かれん委員がおられて、同じ厚生常任委員会の中のメンバーとして知っとる人がおりゃあ知らん人もおるっていうのはおかしいがというて。委員会運営のそのこと自体がおかしいが。

○委員（原田素代君） だから、議運の前に……。

○委員長（福木京子君） ちょっと待って、ちょっと待って。

○委員（佐藤武文君） 自分らあがみんなに知らせてくれなおえんが、ほいじゃあ。

○委員（原田素代君） 議運の前に予定をこちらに出してくれたら一覧表に出てたんですよ。それがなかったんです、事前に。

○委員（佐藤武文君） こんなやり方がどけえあるん。

- 委員（原田素代君） だから、私も議会軽視だなんてずっと思ってます、今の友實市長のやり方が。
- 委員（佐藤武文君） こんなやり方するん、友實市政っていうのは。
- 委員長（福木京子君） それちょっと待って。議運でとにかくその日にちははっきりしました。
- 委員（原田素代君） いや、だからはっきりする経緯もおかしいんですよ。
- 委員長（福木京子君） いやあ、経緯も……。
- 委員（原田素代君） こっちが聞いたから……。
- 委員長（福木京子君） 聞いてから説明して……。
- 委員（佐藤武文君） そんなばかなこと……。
- 委員（原田素代君） そう。そもそも、言うつもりはなかったんだもん、市長は。だから、それがおかしいよ、そもそも。だから……。
- 委員（佐藤武文君） 知っとる委員と知らん委員がおるといのはおかしかろう、へえでも。わしらは全然知らんが、そういうことは。今初めて聞いたわ。
- 委員（原田素代君） それは委員会の問題ですね。
- 委員（佐藤武文君） わしは委員として扱われとらんが、そういうことについて。
- 副委員長（丸山 明君） 委員会として知らなかったわけですから、私も知りませんでした、それは。
- 委員（佐藤武文君） 甚だしいが、ほりゃあ。むちゃくちゃじゃあが、やりようるやり方が。
- 委員（行本恭庸君） いろいろ考え方があるんじゃない。
- 委員長（福木京子君） はい、行本委員。
- 委員（行本恭庸君） ただ、佐藤委員の言われることも一理はあるけど、それは説明会をするのは市長のほうが特に熊山地区に対しての問題があって、尊重させえというような中で話し合いして行って、へえで前回に、30日か、説明会あったときにあれも言い方は違うけど、既定方針どおりの診療所化で進めていきますとはっきり言われたが。
- 委員（原田素代君） 言われてないです。私が……。
- 委員（行本恭庸君） 言うとするよ、あんたもおったでしょうが。
- 委員（佐藤武文君） いやいや、そのことはええけど……。
- 委員長（福木京子君） いや、ちょっちょっちょっ待って、内容をちょっと。
- 委員（行本恭庸君） 言うたが、市長も。じゃから……。
- 委員（佐藤武文君） そのことはええけど、委員会に対してのやり方がおかしかろうが言うん。
- 委員（行本恭庸君） だから、それもきょう委員会なって……。

○委員（佐藤武文君） 内容については……。

○委員（行本恭庸君） だから最初にそういう話が出る前に、その他に入る前に市長がこうこういう話をしましたという報告をすりゃあえかったのを、あんたがしてないからこういことになるん。だから、それについてはもうそら今さらさかのぼって言えるわけじゃねえんじやから、そらもう謝るしかねえんで、そらもうやむを得んことじゃと思うよ。せえで、佐藤委員には了解してもらわにゃあいけんと思う、ほかの委員さんに対しても。だけど、やっぱり筋からいうたら、それはそういう委員会の委員さんに、特に厚生委員さんにはそういう説明、いついつにやりますというような情報を流してねえわけじゃから、私らは熊山の人間ですから防災無線もあったりするからそういう日程的なものは聞いとる、わかっとなりますから出席をさせてもろうたけど。だから、そういう中でいろいろ話をした中で最終的に、予算はもちろん決まっとるわけじゃし、じゃけそれをやりますと、これからは入札の関係も進めていかにゃあいけんわけじゃから、そういうことで。

じゃけど、地元とのまだ折り合いが最終的に前回、30日に済んでないんじやから、じゃけその説明会をこの25日にされるといふんじやけど、そのされる中でも今ちょっと話を聞いた中では、やはり具体的な話を出してしないと、前回やったと同じことを何回やっても同じことになるといふ思いますよ。だから、やっぱり話をするのにたたき台になるものがなかったら、だから執行部が、市長サイドがこういうふうにすると思つたのと、こういうふうにする話を出さんことには、受ける側のほうとしてもたたき台がなかったら話前へ行かんでしょう。どっちも抽象的な物の言い方したんじやあ済みませんが。じゃから、絶対30日にはそういうもので話を出していただいて、それで地元がまたそれに対してこういうものもとかいろんな条件が出てきた中で折り合いがついて、最終的には了解してもらふような方向へ持っていかんと、前回、その前のような説明会の形式でやったんじやったら、ころころころころ片一方の一方的なワンサイドでというようなことで、それに対してほんなら具体的に数字的なもんも、例えば補償するときには云々というて、あれ10億円、桁が違う、何か、何言うたかな。何か10億円程度ぐれえ……。

○委員（原田素代君） 賠償。

○委員（行本恭庸君） 賠償の分でそういう話もちよろっと出されたけど、それじゃあなかなか我々もはっきり絶対これだけっていうものは出ないにしても、いろんな条件をこういうように考えたら、例えば医師会に対してはこれだけ、この程度のものが補償せにゃあいけんじやろうとか、へえから国や県に対して他の事業に差し支えるところがどういふふうな影響があるだろうとか、やっぱりもう少し数字的なもんや具体的な説明をしないんと理解がしていただけんと思うんじや、あれじゃあ。逆に、市長が反対の立場で出られとつても、わしはそうじゃと思うよ。だから、そら今までもあったことは仕方ないんで、だからそういうのを毎回毎回進めていくんじやねえ。けつはだんだん短うなつてきて、それこそ原田委員から出たように6月30日までにどうのこうのという話も出たでしょ。だから、もう後がないんじやから、もっと信憑性の



ある数字的なもんが入った、理解をしていただけるような説明会にしていかなことには、私もきょう今後まだ何回する予定かなあというて聞こうか思うたんじゃけど、そろそろ最後にもなるじゃろうなあ、説明会。そりゃこの25日で最後にならん可能性、十分あると思うけど、しかしその後の次にやるときには最初の方でいくような話にせんと、この話をどんどんどんどん時間をかけて話をしてみたところで、6月30日のときに診療所化で進めていきますという表現をされとるわけじゃから。ただ、それで納得するしてないはあるにしても、方向はあんたが出されたわけじゃから、その方向でおさまるような話をしていただかんことにはおえんと思いますよ。

以上です。

○委員長（福木京子君） 行本委員の今、意見だったんです。

ちょっと1つ、佐藤委員の言う全厚生委員に伝わってなかったという問題で……。

○委員（行本恭庸君） それが、それは、委員長。

○委員長（福木京子君） はい。

○委員（行本恭庸君） それは執行部は執行部なりのやり方があるんであって、だからそれは後で報告すりゃいいという話であって、そりゃ連絡があってもおかしゅうはないですよ。連絡をした後にやるというのが一番そりゃあ筋かもしれません。しかし、問題のあるところへ行って現場主義でいって出ていかれてやられる言われとるわけじゃが、本人が。じゃけ、行ってやられとるわけじゃ。ただ、その回数、何回か踏んどるけど、まだ具体的な話も出てない。しかし、前回のときに予算もあることじゃし、こういうふうなことでやりますということははっきり言われた。ただせえで、向こうが了解しましたとは言うてねえだけの話であって……。

○委員長（福木京子君） 行本委員のあれはいいんですけども、だから全この厚生委員が知らなかったという問題について、議運のほうで原田委員が執行部をただしてやっとなりますという報告があって、その後、厚生委員に知らせてなかったというのは、その責任は委員長ですか、委員会ですか。

○委員（佐藤武文君） いやいや、行った委員もおったり全然知らん委員がおるとするのは委員会運営としておかしいんじゃないんですかと、そこを僕は問ようん。

○委員長（福木京子君） ということは……。

○委員（佐藤武文君） そのやり方で、市長がああ言うた、こう言うた、こういうことを決めてきたということについて、僕はそのことについては一切触れるつもりはないんですよ。それは市長の権限でやられてるんじゃけええんじゃけど、委員会運営、議会軽視も甚だしいやり方を友實市長がやられるんですかと、やっとなられるんじゃないんですかと、そこを僕は問ようん。

それから、委員長、副委員長にしても、当然そのことについて委員会運営の中で知っとる委員と知らん委員とがおったら、そら委員会運営そのものが好ましい委員会運営とは言えんわ。

委員長は行っとられる、原田委員は行っとられる、私らはきょう初めてそういうことについて聞いたという状況でしょう。いや、こういうやり方をしたらだめでしょということを言ようんで……。

○委員長（福木京子君） だから……。

○委員（原田素代君） 関連してちょっといいですか。

○委員長（福木京子君） はい、原田委員。

○委員（原田素代君） 佐藤さんが懸念するのはもっともなことで、私も参加させていただいて危惧することの一つは、市長のスタンドプレーにならないかと思ってはらはらしてるんです。要するに、市長としてはこういうふうにおっしゃったわけです。僕も住民の皆さんと一緒に、診療所じゃなくて病院残したいとおっしゃった。議会では一度も言ったことがないことをあの場で市長が言ったのにも驚いたのとあわせて、できるだけ皆さんの要望に応えられるようないい診療所にしたいって、これは口で言うだけのことですから、その中身が従来のプランプラスどれだけのオプションがつくのか知りませんが、要するに委員会で十分ここでの議論がされてたら、市長さんがそういう場に出ていったとしてもですよ、従来のプランのように進めるという以上のことを勝手なことは言いませんよ。だけど、ここでの意思疎通がないから何か私、友實市長の回答を聞いてて、僕に任せてください、僕は今までのプランがこうあったらそれにいろいろつけてあげますよみたいに聞こえるわけですよ。それは困るんです、議会として、そうじゃないから。ていうことは、やっぱりこういう場で市長としてはこういう思いですと。だって、さっき言ったように初めてだもん、ここの委員会で診療所化を進めるって言ったのは、市長は。今まで言ったことないですよ、一言も。自覚されてるでしょ。これから検討する、僕が最良の判断をするっておっしゃった。今、初めて診療所化を進めますって言ったんですから。

だから、そういう意味で佐藤委員が言うように、この委員会できちんと市長の真意がここで伝わってないから、私なんかからすると、おいおい、市長勝手なこといろいろ言ってどうなるんだらうって思いますよ。市長のスタンドプレーが行ってしまわないかと思いましたよ。そういうことはないでしょう。だけど、そういうふう聞こえてしまいます、意思疎通ができてないから、ここで。だから、そういう意味で佐藤委員が言うのは、そういうことも含めてやっぱりこの担当委員会がこの2年間、汗をかいてきたわけですから、この担当委員会がそれぞれ地域の方の声もしよってここにいるわけですから、何でもっと担当委員会の中で率直にそういう議論が、今になって診療所化を進めますなんてことを言うこと自身、私、けっと思っちゃいましたけど、ようやくかいと。いや、なぜ言えなかったのかと、公的なところで。市長として泥をかぶる覚悟を持ってほしかったわけですよ、私は。

だから、そういう意味で、ここで議論することがどれだけ大事なことからもう一度確認すべきだと思いますよ。次の25日の説明会について、市長の腹をきちんとここで出されな

いと。そういう議論してほしいと思います。

○委員（行本恭庸君） ここで休憩しょう。

○委員長（福木京子君） あ、そうやな、1時間過ぎましたね。

ほったら、ちょっと休憩いたします。何分まで、25分まで休憩いたします。

午後2時15分 休憩

午後2時25分 再開

○委員長（福木京子君） 再開したいと思います。

はい、それでは市長。

○市長（友實武則君） これまでの経過をまず御報告させていただきます。

赤磐市民病院の診療所化につきましては、皆様も御存じのとおり本年2月の平成25年度予算で可決し、採決をいただいているところでございます。その後、赤磐市長選挙を経て4月17日に私が赤磐市長に就任し、この赤磐市民病院の経過を踏まえて判断をしてみました。そして、判断の内容といたしましては、当初予算の赤磐市民病院を診療所にするという方向性を持って予算を執行するという判断をさせていただいたところでございます。そして、この判断をもとに6月30日に説明会を実施いたしました。その結果、理解がなかなかいただけない、反対の方がまだまだたくさんおられるということで、その6月30日の説明会は出席されている方からこれできょうは終わろうという意見もいただいて、そのときは結論が出ない形での終了をいたしまして、そしてこの7月25日に再び説明会をして、少しでもたくさんの方々に理解をしていただくということを目標に説明会をさせていただくというふうに考えているところでございます。

ここまでの経過をこの厚生常任委員会の皆様にお知らせするのがおくれてしまったことを先ほどおわびを申し上げましたが、重ねましておわびを申し上げさせていただきます。どうも申しわけございませんでした。そして、この診療所化についての先ほど原田委員さんからも御指摘のあった私の方向性について、この皆様に御報告をさせていただきます。

赤磐市民病院の無床の診療所化につきましては、先ほども言いましたように当初予算どおりに執行する予定でございます。そして、市民の皆さんがベッドがなくなって不安になる、このままでは熊山地域を中心に、赤磐の特に高齢者に対する医療が将来的に不安だというふうな声がたくさん私の耳に入ってきております。これに対してどういう解決策があるか、私なりに全国の事例等を調べながら勉強しているところでございます。そして、まだまだ全国的にたくさんあるわけではないんですけども、特に高齢化あるいは過疎地の診療所に特養とかデイケアとかの施設を併設してベッドにかわる機能のものを備える、こういったことが最近、少しずつではございますが、事例が見えてきてる、このような状況が私の研究で事例として見つけることができました。こういったものをヒントに、この赤磐市民病院のベッドの代替機能となるものを併設してはどうかということをお皆さんと相談してこれから先、決めていきたい、こういっ

たことを25日に説明させていただき、また幸い、そういう複合的な施設を併設している自治体が岡山県内、新見市にございます。そういったところを地域の方と一緒に視察に行ってみていただく、こういったことも含めてお話をさせていただければというふうに思っているところでございます。

視察につきましては、先行的に職員のほうで新見のほうへ視察に行かせていただきました。非常に素晴らしい診療所を運営しておられます。そういったところを見ていただいて、今、仮の予定でございますけども、バスで新見のほうへ今年29日に希望者がいらっしゃれば視察に行こうかというふうに考えているところでございます。この新見の事例をそのまま赤磐で、熊山地域で実施するというのではなく、考えるたたき台として提案できたらというふうに考えているところでございます。

私のほうからは以上でございます。

○委員（原田素代君） はい、委員長。

○委員長（福木京子君） はい、原田委員。

○委員（原田素代君） 全体を通してもう少し皆さんの御意見聞けばいいと思うんですけど、一番今、聞いて感じるの、院長はどう思ってるんでしょうか、田中院長は。要するに、この間、この問題について当事者である院長以下医療スタッフは何の声も上げてないわけです。だけど、聞くところによると、とにかく病院は無理と、一刻も早く診療所にしてくれということ、を糸島先生を初めとして、要するに水面下ではそういう話だというふうに、なぜか水面下しかないんですが、聞いてます。今回この特養でデイケアを併設するベッドの代替機能となったときに、院長を初め医療スタッフはたえられるんですか。そこはしっかり下話ができてるんですか。それをまず確認していただきたい。それを25日に発表しちゃって大丈夫なんですかって不安があるわけですよ。山田事務長、どうなんですか、そういう話はされてるんですか、水面下で。

○熊山支所長兼赤磐市民病院事務長（山田長俊君） 委員長。

○委員長（福木京子君） はい、山田事務長。

○熊山支所長兼赤磐市民病院事務長（山田長俊君） 前の井上市長の際に、最初、あり方検討委員会の答申が出てから、たしかそのころに老健施設を併設したらどうかという意見があったことはあったんですけど、その後はちょっと消えています。ですから、そこら辺の思いというのはあるかもしれないですけど、市の方針としてそういうことをもしやるということになれば、院長との話も当然あったほうがいいかなと思いますけど。

○委員（原田素代君） いや……。

○委員長（福木京子君） はい、原田委員。

○委員（原田素代君） されてないということですよ。実は、友實さんどこまで御存じか知らないけど、私たち2年間やってくる中で大変、院長先生とのコミュニケーションが難しか

ったわけです。院長先生はなかなか公な席での発言はしたくないということで、安井副市長とか担当職員のほうにいろいろお話しされてるのを漏れ伝わって聞くしかないわけですが、要するにようやくして診療所化になってやれやれと思ってるでしょうけれど、ここでそういう施設を併設することでまずスタッフの確保ができるのかどうかということも心配ですし、この間、糸島さんを初めとして専門家の話は、とにかく医者を何とかしなきゃだめよね、医者を大事にしてくださいねって、そういう話だったわけです。そういう中で診療所って言うていながらまたこうやって付設のものが、併設するものができることに、やっぱりまず市民に説明する前に担当の院長初め引き受けるべき人たちが、よっしゃ、それなら大丈夫だっていうことをちゃんと確認してから進めていただきたいと思うんです。これでまた二転三転するようなことのないように。だって、友實市長、言ったのにうそつきって呼ばれますよ、せっかくやろうと思っても、医者が嫌だといったらできないわけですから。だから、もうちょっと慎重に事を進めていただかないと私は大変。

新見がよかったっていうのも聞きました、実は、大分前に職員が言ってるのを。だけど、余り大きな声では言えませんけれど、そこはやっぱり医療スタッフが大変優秀なスタッフが集まって回ってるって聞きました。うちの今のスタッフの中でそれが果たしてできる力量があるのかなあと、医者がそうでなくても1人、もしかしたらいなくなるんじゃないかっていううわさもありますし。だから、受け入れる側のスタッフが本当に水面下しかないないので、この赤磐市の場合、議論の中に、そこをもうちょっと市長部局のほうがかなりしっかりと綿密な説明と了解はいただかないと、吹っ飛ぶようなことにならないようにしていただきたいと思うんですが、どうでしょうか。

○委員長（福木京子君） はい、市長。

○市長（友實武則君） 複合的な施設をっていうのは、これ診療所の運営でっていうふうには考えてございません。これを今ここでじゃあどうするんだっていうことを決めてるわけではないので、何らかの検討委員会なりで市民の代表の方も入っていただきながら審議しながら決めていくことが重要だというふうに考えておりますので、決定的なことを市民の皆さんに説明するつもりではありません。これからそういう複合的な施設でもどういったものが複合的に備わるのが一番この熊山地域にふさわしいのか、そういったことは皆さんと話し合いをしながらじゃないと決められんというふうには私は認識しているところでございます。ですから、この新見のケースをたたきに、皆さんイメージを持っていただきながら次のステップへ入っていきましようということを説明させてもらおうというふうに考えてるところでございます。

以上です。

○委員（原田素代君） 老婆心ですけど……。

○委員長（福木京子君） はい、原田委員。

○委員（原田素代君） やっぱり今こういう住民の気持ちの状況の中でその一言っていうのは

言葉が走りますから、市長はこう言ったじゃないかって。だから、そこはよっぽど病院スタッフのほうとも相談しながら、将来、診療所はこういうものを併設してこういうふうにしていきたいということをしっかり打ち合わせをしていただかないと、辛うじて今、残って頑張ってくれてる田中院長がそっぽ向かれるようなやり方をできないわけですから、崖っ縁なんですよ、今。ですから、そこは25日にとにかく市長がおっしゃる前に山田事務長も初め皆さんで十分意思疎通をしていただいて、じゃあこういう案も出してみようかぐらいの慎重さが欲しいというふうにまず思っていますので、老婆心であえて言いましたが、それは承知の上だと思いますけど、そこは非常に心配しています。

終わります。

○委員長（福木京子君） よろしいですか。

○副委員長（丸山 明君） はい。

○委員長（福木京子君） はい、丸山委員。

○副委員長（丸山 明君） 市長さん、僕もさっきの説明で、多分6月の議会の中でだろうと思うんですけど、25年度予算、この4億円の予算でいこうというふうに最終的には決められたと。ほんで、6月30日の市民説明会に臨まれたわけですよ。ですから、それならばそれでいろいろ市長さんとして考えたけれども、御意見もいただいたけれども、今の診療所化に向けてのやり方っていうのがいろいろな面を考えてみても最終的にこれが一番最善なんだということなんだろうと思うんですよ。ですから、この時点でさっき言われたようなベッドを併設するとかというふうなことを言われると、さらに熊山の方の期待をあおるような結果にもなりますし、そうするとさっき原田委員も言われたし、それからこちらの医師会の病院だって結局そういうベッドをめぐっては工事まで入られてるようなことがありますよね。ですから、そういうさまざまなことがまだ膨らんでくる可能性がありますんで、ここはひとつ当初予算でいろいろ考えたけども、これでやらせてくれということで僕はやっていかれるんが一番現実的なやり方ではないかというふうに思うんですけど。その後そういうふうなことがあるのであれば、それは実際問題として考えられていったらいいと思うんですけど。

○委員長（福木京子君） うん、ちょっちょっとあれ……。

○副委員長（丸山 明君） あ、いや……。

○委員長（福木京子君） よろしいん。

○副委員長（丸山 明君） はい。

○委員長（福木京子君） ちょっと今、丸山委員、ベッドを併設する云々、それはちょっと違うんじゃないですか。それは関係ないでしょ。

○委員（原田素代君） いや、今、ベッドの代替え……。

○委員長（福木京子君） 代替機能ということですから。

それで、この病院についてはよろしいですか。

私は委員長なんですけど、これについて……。

○委員（佐藤武文君） ちょっちょっ委員長、よろしいですか。

○委員長（福木京子君） はい、佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 私は冒頭、友實市長に対して議会軽視、委員会軽視の問題について提起をさせていただきました。その後、友實市長のほうから再三のお断りがございました。しかしながら、お断りを聞いておっても、今後このようなことが点々々々という言葉が一切ございません。私はそのことについては不満です。これをこの場でいろいろ私が発言をしても結論には至らないと思います。だったら、委員長、副委員長にこのことについては私は委任をさせていただきますので、委員長、副委員長のほうで友實市長に対して議会軽視、委員会軽視についてきちっとはっきりしてください。もし場合によったら、議会運営委員会においてもこのことについては私は捉えて提案してやっていただきたい。そのことをお願いして、委員長、副委員長に私は一任させていただきますから、よろしく願いいたします。

○委員長（福木京子君） 今、佐藤委員から言われましたんで、やはり委員でもみんな全員、情報としては共通に知っておかないといけないと思いますので、そういう議運のほうから質問して日にちを説明会の日をするとか、それからやっぱ総務委員会に先にされるとか、本当にそれは委員会軽視のやり方ですね。そのあたりをきっちりちょっと反省もしていただいて、今後このようなことがないようにしていただきたいと思うんですけども、どんなでしょうか。

はい、市長。

○市長（友實武則君） まことに御指摘のとおりで、本当にこの担当委員会の皆様にお知らせできなかったことは反省もいたしますし、今後このようなことがないよう細心の注意を払って運営をさせていただきたいと思いますので、どうぞ御容赦をいただきたいと思います。申しわけございませんでした。

○委員長（福木京子君） 市長のほうからそういうありました。

○委員（原田素代君） ちょっと……。

○委員長（福木京子君） はい、原田委員。

○委員（原田素代君） 最後に、念押しですが……。

○委員長（福木京子君） はい、原田委員。

○委員（原田素代君） さっき行本さんも言ってたけど、この7月25日の説明会は最後になると思ってよろしいのでしょうか。

○委員長（福木京子君） どなたが答えられますか。

○委員（原田素代君） 市長でしょう。

○委員長（福木京子君） はい、市長。

○市長（友實武則君） 私としては、この説明会が最後になるというふうに思って臨みたいというふうに思っております。

以上です。

○委員長（福木京子君） 私も、一応皆さん言われたんですが、委員長としては熊山地域の意見を十分聞いていただきたい、今の時点でも。この間、参加した中で相当の意見が出されておりますので、十分聞いていただきたい、そのことだけは言うときたいと思います。

この病院問題についてはこれで終わりたいと思います。

○委員（佐藤武文君） 委員長あんただけ行っとんじゃあから……。

○委員長（福木京子君） 私だけじゃないですよ。

○委員（佐藤武文君） いやいやいや、じゃからわしらにもあんたが行くんじゃったら言うてくれにゃあおえんということも反省してくださいよ言ようんじゃ、わしは。

○委員長（福木京子君） 佐藤委員が言われたように、議運でわかった時点で厚生委員さんに全員、委員長名で知らせるんですか、議長名で知らせる。委員長で……。

○委員（佐藤武文君） 委員長名でもええんじゃけど……。

○委員長（福木京子君） とにかく、委員さんには知らせ……。

○委員（佐藤武文君） 知らせるだけは知らせてくれにゃあおえんが言うん。

○委員長（福木京子君） それは反省いたします。今後、気をつけますので、お知らせいたしますので。

ほんで、7月25日は全員一応知ったということで……。

あ、ほいで7月29日もバスでということも一応……。

○委員（行本恭庸君） 1週間先の話じゃから。

○委員（原田素代君） それと、25日は……。

○委員長（福木京子君） はい、原田委員。

○委員（原田素代君） 25日の報告は、ちょっと異例の委員会でもいいので、全員が出られるか出られないかは別として、ちゃんと報告をしていただきたいと思いますが。30日の報告は……。

○委員（佐藤武文君） 25日はどこで何時からやるん。

○委員長（福木京子君） だから、今、説明されたように7月25日夜7時から熊山のふれあいセンターホールで第2回目というんか、説明会がありますという報告がありました。

それで、25日のことについては日程のこともありますしで一応報告はしていただきたいとは思いますが、ちょっとその辺は執行部と話しさせていただいて、何らかの報告はどの時点かでは委員会開いて報告していただきたいと思います。きょうはそれでよろしいですか。

○委員（原田素代君） 29日の視察は決まってるんですねえ。

どうなんでしょう。言ってもしょうがないですね。私は慎重にいったほうがいいと思いますけど。

○委員長（福木京子君） ちょっと7月29日の希望者というのはどういう形にそしたらなるん



ですか。

○委員（原田素代君） だから、書面を出してください、こういうコースでこういう……。

○委員長（福木京子君） 希望者というんか……。

○委員（佐藤武文君） 希望者というて、そんなんなかろう。

○委員長（福木京子君） ない……。

○委員（佐藤武文君） そねえな仕方がどけえあるん。

○委員長（福木京子君） それはないんだけど……。

○委員（佐藤武文君） 行くんなら行ってくれえ、行かんのんなら行かんでもええというて…  
…。

○委員長（福木京子君） いや、だから……。

○委員（佐藤武文君） はっきりしてくれにゃあおえんで。

○委員長（福木京子君） だから、それは執行部の市長のほうがそういう説明があったんで、  
どうですかということ。

○委員（佐藤武文君） 希望者というのはどういうことでえ、それ。

○委員（原田素代君） ちょっと待って。7月29日。

○委員長（福木京子君） 7月25日に説明会があつて……。

○委員（原田素代君） 議運だよ。

○委員長（福木京子君） 4日後ですよ。

○委員（原田素代君） 7月29日でしょ。

○委員長（福木京子君） 言われたでしょ。

○委員（原田素代君） 議運がある、10時から。

○委員長（福木京子君） 7月29日というて言われたんじゃないですか。希望者はバスで視察  
に行くと。

○委員（原田素代君） 議運ですよねえ。

○議長（小田百合子君） 希望者って市民向けじゃないんですか。

○委員（佐藤武文君） ほんなら、我々は関係ねえが。

○委員（原田素代君） だから、なおざりにされてるんですよ。先に議会が行くなら行くで進  
めていただかないで市民の方が行かれるわけですから、議会は何も知らないまま進むわけ  
です。これはどうでしょうねえ。

○委員長（福木京子君） 25日を受けて。

○委員（原田素代君） いや、だって29日のことでしょ。委員会としていいんですか、それ  
で。

○委員長（福木京子君） ここできょう決めるわけにはいきません、視察云々というのは。

○委員（原田素代君） いやあ、だから委員会軽視だつていう議論がさんざんあつた上で、市

民にそうやって御案内して議会は何も知らないわけでしょ。第一、行事があるんですよ、議運が、29日は。そういうことでいいんですか。

○委員長（福木京子君） 29日に市民の方で行かれる予定というんか、準備されてるんですか。

はい、市長。

○市長（友實武則君） はい。

○委員長（福木京子君） はい。

○市長（友實武則君） 29日につきましては、地域の方々に案内を口頭でさせていただいて、まだ希望者の返事は返ってきておりません。

○委員（原田素代君） どこで口頭でしたんですか。

○市長（友實武則君） 区長会のほうでお話をさせていただきました。熊山の区長会です。それから、これは新見ですので半日ぐらい、午後から出かけて行って夕方には帰ってくると、こういう行程で考えているところです。

以上です。

○委員（原田素代君） これあくまで対象は市民なんですよ。

○市長（友實 武則君） はい。

○委員長（福木京子君） きょうはちょっと判断が……。

○委員（原田素代君） 委員会はどうされるんですか。

○委員長（福木京子君） それでも、29日というたらあと日にち的にもちょっと難しいですから……。25日の様子も見ながらいかないと、その後の様子も見ながら検討させていただきたいと思うんですが、きょうの時点ではそれでよろしいですか。

○委員（原田素代君） いや、だから言っときたいのは、佐藤さんも盛んに言うけど、要するに事程左様なんです。やっぱりもうちょっと委員会について事前に事前にちゃんと話を進めていただけてないことがこういうふうに次々出てくるわけですから、院長との話し合いもそうだし、委員会に対して配慮もそうだし、そこはもうちょっと慎重にしてください。小坂部長、そこはしっかりと目配りをして友實市長を支えてあげていただきたいと思いますよ。池本部長かな。ちょっとやり方に幾らか粗さが見えますよね。そりゃあ委員会としては大変不満です。私も一緒です。議運のときもそうでした。

○委員長（福木京子君） きょうの時点ではそれで終わらせてください、市民病院のことについては。

それでは、その他について入ります。

何か執行部のほうはもうないですか。

ないようですので、ほったら委員さんからありましたらどうぞ。

○委員（原田素代君） はい。

○委員長（福木京子君） はい、原田委員。

○委員（原田素代君） エスクのことなんですが、赤坂惣分、山手にあります産業廃棄物処分場のエスクのこと、これ前回出ましたよね、ここ。

○委員長（福木京子君） はい。

○委員（原田素代君） 道路から3メートル上がるんです、今回の説明で。私は、地元の合意はエスクの方のほうがとってらっしゃると聞きました。こんな分厚い説明書も見せてもらって説明に回ってらっしゃるといのも聞きましたし、特段、公には嫌だと、反対だという声はないというふうに聞いてますが、議会としていわゆる道路から3メートルも盛り上がるような産廃を埋め立てることを私は認められないと思います。というのは、要するにこのエスクがここで認めるってことは、今後もし何か赤磐市にあったときにエスクの事例が当然、過去の実例として出てきます。普通、道路から3メートルも上がるような産廃、いわゆる産廃富士などというのは今どき認められません。経緯からいっても前回、何年か前でしたか忘れましたが、これで最後という確約をとってエスクは当初の予定よりも乗せたわけです。その最後だという約束をほごにして、もうちょっと上げさせろとって道路から3メートル上がるわけです。これは地元の方がどういういきさつか知りませんが、皆さん反対の声を上げられてないわけですが、議会としては看過できないと思っています。これはやはり認めるべきでない、道路から上がるような産廃を認めてはいけない、そういうふうに思っています。ちょっと少し皆さんの意見をいただいて、できればそういう方向で執行部のほうに話をしていきたいと思うんですが、どうでしょうか。

○委員長（福木京子君） このことについてどうでしょうか。

○副委員長（丸山 明君） はい。

○委員長（福木京子君） はい、丸山委員。

○副委員長（丸山 明君） 前回のこの委員会で初めて報告いただいたんですけども、その後、私もちょっと現地に行ってみました。大変な装置を、淡水化プラントですか、そういったものも導入されてて、出てくる汚水をちょっと飲ませていただきました。処理した水を飲ませていただきましたんですが、汚水が相当危険なものといいますが、やはりそのまま谷川に流せないものが出てきてました。

私は問題だと思ったのは、エスク岡山さんっていうのが産廃でもって経営を、産廃をあそこに持ち込むことで経営を成り立たせてるっていうふうに基本的に今、思える会社でございましたので、今の産廃だけでもかさ高があれ47メートルあるということで、ほんでしかも一番水源地に近いところ。一応何か岩盤の上にそれに乗ってるんだという説明でしたけれども、ただ汚水が出てくるのが18年、今後予想される。それで、18年で終わるっていう保証はないわけですけど、ですから大変厄介な産業廃棄物の埋立場になってるということで、費用的なものがどう、今積み立ててる1億800万円プラス3,000万円っていうものを予定されてるようですけど

も、それでは到底足りないというふうな状況になってます。ですから、そういう状況の中でいづれにしても中途半端に事業継続を認めてみたところで、これどうにもならない。先行き本当に無害になるまで面倒見るってのは大変なことなようございまして、私もぜひ厚生常任委員会の委員さんの中である程度、情報共有をしながら今後どういうふうに進めていったらいいのか、それはやっぱり私たちの責任としても考えていかないといけない、少なくとも、事案だろうというふうに思いました。ですから、今の時点でそういうただ何年か延ばすためだけの、26年度まで3,000万円積み上げるだけのかさ上げを認めるっていうのは、まさにつけ焼き刃のやり方だなあとというふうに思いますので、ぜひ問題意識を共有したいなというふうに思いました。

○委員長（福木京子君） 2人の委員さんから出されてるんですけども、私としても原田委員が言われたように、これが最後だという、これまで多分、議員さんされてたらそれは覚えておられると思う。これが最後だということで終わって、へえで予算の中に積み立ての予算が毎年出てきてると思うんですけど、それをほごにするようなやり方になってますよね。この問題をだから厚生委員会としてはどのように扱っていきましょうか。

○委員（佐藤武文君） では、委員長、よろしい。

○委員長（福木京子君） はい、佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） エスクの問題については、旧赤坂町時分からのいきさつがいろいろありまして、非常に長い年月、今の場所で経営、運営をなさっておられます。その中でいろいろ問題があったということも、いろいろなことをお聞きをさせていただいたりします。今回の問題についていろいろ議論されるのは、私は十分議論していただければ結構だろうと思うんですけど、しかしながら権限は県が持っておられるし、それからまして先般の委員会でも市長のほうから3つの考え方についての提案があって、私はそのことについてのスペシャリストであるというような市長も豪語されてる発言もございまして。そういうことの中で、まだ道半ばの中で我々委員会がそういうふうな結論を出してだめだだめだというのは横暴なやり方であって、これは委員会としても執行部の意見を聞いた中で判断をすべきではないかなあと、私はそのように判断をいたしとります。ですから、執行部の判断が出る前に委員会の中で結論を出すというのは、やり方として私は余りいいやり方じゃないというふうに思っておりますので、執行部の見解を待って判断をしたいというふうに思います。

○委員長（福木京子君） 他に、よろしいか、意見としては。

○委員（行本恭庸君） 佐藤委員の言われとるとおりで。

○委員長（福木京子君） そういう一人一人の意見が出されていますので、一応意見を執行部のほうに今さっき言わせていただいたんで、それを十分検討していただいて、市としてもちゃんとやっていただきたいなあと、またその報告もしていただきたいなあとと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○委員（原田素代君） もう出てるんじゃないんですか。

○委員長（福木京子君） どんなんですか、その後、前回の委員会以後の経過が変更があれば、変化があれば報告願いたいんですが。

○委員（原田素代君） いや、3つのうち1つはいただいたっていう話をしましたねえ。違いますか。

○委員長（福木京子君） 前回の委員会後の。

はい、市長。

○市長（友實武則君） 先ほどのエスクのことについて今のこれまでの経緯を説明させていただきます。

私が現地へ行って、先ほど佐藤委員のほうからもお話しありましたが、3点について見解あるいは見通しを示すようにということで、いわゆる宿題を渡しておりますが、のり面の安定についての計算結果を一度私のほうに持ってききましたが、私のほうからこれでは話にならんということで返してます。専門的にこういう検討が欠けるとということで、その辺を充実させたものを持ってきていただかないと、審査といいますか、見るができないというふうに返させていただきます。それから、そのほかについても、1カ月、2カ月で結論が出る内容を言い渡してるとも私は思っていないので、しかるべき専門家の意見を求めて詳細な検討を加えたものじゃないと答えにならんと私は思っております。そういう中で、この3点以外に委員の皆様がお気づきの点がありましたら、私のほうにお知らせいただければその点も踏まえてこれから先、対応してまいりますので、その点お気づきがあればおっしゃっていただきたいと。担当課でもよろしいですし、私でもよろしいですし、言っていただければと思います。

以上です。

○委員長（福木京子君） よろしいですね。

○委員（原田素代君） はい。

○委員長（福木京子君） ほったら、この件は以上です。

それであと、その他ありましたら、ほかの問題で。

○委員（原田素代君） 済いません。

○委員長（福木京子君） はい、原田委員。

○委員（原田素代君） 短く言いますが、山口工業団地にアチューマツトというもともとは産廃業者が事業をしています。ここは産廃業者指定ですが、扱ってるものは産廃の中の4種目だけ、紙と布と木片と、あともう一つ何だったか忘れ、ビニール系かな、これだけを今、RPFっていうんですか、固形燃料にする。その4種目だけを集めてきてあそこの山口の工場で圧縮して固形燃料にして、鳥取の製紙会社に卸してる。そういう事業をしてるアチューマツトさんが今、8時間営業してるんですが、これが来るときには山口中がすったもんだしました、産廃業者が来てもらっちゃ困るということと業者でも来てもらえばいいがということで。そういわ

れのある事業者さんなんですけど、たまたまこの間、ごみの減量審議会の中で報告があって、このアチューマツトさん、もともと産廃業者だったんですけど、今回何か要するに一廃の業者指定も取られて赤磐市内の特定の事業者さんと契約を結んで、その4種目だけを赤磐市内から調達して事業をさらに拡大したいという報告を聞きました。それが、24時間操業をされるそうです。今までは山口では8時間操業だったので、本当に車両台数をカウントしたりして地元ではさんざんもめた業者さんなので、今回のことが地元でどこまで説明をされて、市としてはその点についてどういうスタンスでいるのかということをごこの場でちょっと確認をしたいのですが、教えていただけますか。

○委員長（福木京子君） どなたが答えられますか。

はい、黒田課長。

○環境課長（黒田靖之君） 先ほど原田委員さんが言われたように、この西日本アチューマツトクリーン、山口地内で赤坂町の時代に創業されて、現在に至っております。

○委員長（福木京子君） もうちょっと大きい声で、ちょっと。

はい。

○環境課長（黒田靖之君） それで、先ほど言われたように木くず、それから紙くず、それから繊維、布ですね、それから廃プラ、この4種類を圧縮しましてRPF、固形燃料にして製紙会社のほうに販売してるという状況です。現在はおっしゃられるように1日8時間の操業でやっております。というのも、当然、原料となるものが少ないというところからそういった8時間の運転、操業にしかできないと。本来は24時間を操業すれば48トンの処理能力を持った施設ですよというお話でございます。現在は赤磐市内からじゃなく、他の事業所等から先ほどの4種類の品目について受け入れを行っておると。量が少ないということがあるから、赤磐市内の事業系の一般廃棄物を収集、収集業者が別におられますけど、その方々で集めていただいたものをその工場に持ち込んでいただくという考えをお持ちのようです。その一般廃棄物の処分業の許可をいただきたいということで現在考えておられます。

○委員（原田素代君） いや、何か取られたような。

○環境課長（黒田靖之君） いや、うちのほうはまだ……。

○委員（原田素代君） あ、そうですか。

○環境課長（黒田靖之君） 出てきてないですし……。

○委員（原田素代君） じゃあ、県に申請じゃなくて……。

○環境課長（黒田靖之君） いや、赤磐市です。

○委員（原田素代君） ああ、そう……。

○環境課長（黒田靖之君） はい、処分業の分は。

これからの話になります。そのためには、以前、始めたときも地元のほうでお話があったわけなんで、当然その辺は地元のほうにもこういった事業を計画してるよということで十分理解

をしていただかなければならないですし、説明のほうも当然あってしかるべきだと思っております。ですから、単にしたいんだという話も今後あるとは思いますが、計画があるわけですから。ただ、その前には地元のほうどうなんですかというようなことは必ずそれを伝えて状況を説明を求めていきますので、その点は今も変わりはありません。

○委員長（福木京子君） はい。

○委員（原田素代君） じゃあ、ぜひ地元నికిちんと対応するように指導してください。

○環境課長（黒田靖之君） 当然、地元にある会社ですので、そこが受け入れてやっぱり今現在うまくいってるとは感じてるんですけど、そのために今後ぎくしゃくしても困りますので、その点はないように十分お願いしたいと思います。

○委員（原田素代君） お願いします。

○委員長（福木京子君） 他によろしいですか。いいかな、よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（福木京子君） それでは、慎重に御審議いただきましてありがとうございます。

これで厚生常任委員会を終わるんですが、その前に閉会挨拶を……。

○議会事務局長（富山義昭君） あ、決算審査……。

○委員長（福木京子君） いや、ああ、ごめんなさい。その他ありました。

ちょっちょつと皆さんに諮りたいと思います。

9月に決算委員会が、特別委員会あります。各ここの委員会から2人選出ということなんですが、どなたになっていただきましょうか。希望者の方がおられたらお願いしたいんですが、どんな。希望者出してください、手挙げてください。

○委員（佐藤武文君） おらのじゃから、委員長、副委員長で。

○委員長（福木京子君） おられんの。原田さんは。原田委員は。どうしますか。

○副委員長（丸山 明君） 委員長と僕で行っても……。

○委員長（福木京子君） ほったら……。

○副委員長（丸山 明君） 経験者にでも入ってもろうたほうが……。

○委員（原田素代君） 経験者ですよ、福木さん。

○副委員長（丸山 明君） いや、私が。

○委員（原田素代君） いや、だから入られたほうがいい。セットだから。

○委員（実盛祥五君） セットじゃ。

○委員長（福木京子君） そしたら、どうしましょうか。そしたら、委員長と副委員長がさせていただきますてよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（福木京子君） ほったら、そういうことで決まりました。

それでは、閉会の前に、安井副市長、挨拶をお願いします。

○副市長（安井栄一君） はい、委員長。

○委員長（福木京子君） はい、どうぞ。

○副市長（安井栄一君） 第6回の厚生常任委員会、委員の皆さんには慎重に進捗状況、その他につきまして御意見いただきまして、ありがとうございました。

十分御意見を踏まえながら今後進めていきますので、どうかよろしく願いいたします。きょうは大変ありがとうございました。

○委員長（福木京子君） じゃあ、これで第6回厚生常任委員会を終わりにいたします。

御苦労さまでした。

午後3時5分 閉会